

救急安心カード

【諏訪学区】

■世帯数：2,498 世帯

■人 口：5,601 人

■面 積：1.373 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- 学区内全世帯対象に、自宅に駆けつけた救急隊が病院に搬送する際、情報を取得し、適切で迅速な処置をするために役立てる「救急安心カードキット」を配布。
- キットは「救急安心カード」とそのカードを入れる「容器」、およびカードを配置していることを救急隊に知らせるための「シール」（玄関用と冷蔵庫用の2枚）からなる。
- カードには、かかりつけ医、常飲している薬、緊急連絡先などを記入し、容器に入れ、冷蔵庫のドアポケットに保管する。設置場所は学区から消防署救急隊に事前に連絡しておく。
- 約 790 世帯 5,500 人が利用している。

【住民へのPR方法】

全世帯にキットを配付する。学区防災訓練会場にて使用方法の説明を行う。

【アピールポイント】

高齢者世帯だけでなく、全世帯に配布したこと。カードへの記入をきっかけに、家族全体で使用している薬、病状を共有することができ、また緊急連絡先として親戚・知人に依頼をすることで交流が生まれること。

2 きっかけ、背景

ある男性が自宅で転倒・怪我をした時に、家族がパニックになり救急車を呼ぶこともできず、駆けつけた隣人が救急出動要請をしたものの、名前・年齢・持病の有無など、基本的情報も伝えることができなかったという事件をきっかけに、救急医療情報キットの導入を検討した。当初は高齢者世帯を対象に検討したが、カード設置を知らせるシールを玄関に貼るため、高齢者世帯の目印となる危険性があること、および若い世代でも持病を抱える人はいることから、全世帯への配布を行うことにした。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、消防団員
計約 21 人

(2) 他団体との協力

防災委員会だけでなく、学区連絡協議会全体で内容を周知し把握している。

(3) 運営協力

学区連絡協議会全体の事業とし、運営 PR、書き換え用紙の用意などを行う。

4 実施のスケジュール

H21 年 学区防災会議に救急医療情報キットを提
4月 案し、了承を得る

8月
・原案用紙の制作、見積もりを取る
・東海市の救急医療情報キット「命の助
つ筒」を視察

H22 年 キット完成。中村消防署に各消防署・出
5月 張所への配布を依頼

H22 年 学区防災訓練会場にて「救急安心カード」
6月 の使用方法を説明・PR

5 成果と課題

(1) 成果・効果

このカードに情報が書いてあると思うだけで安心だという声が出ている。

(2) 苦労した点

住民の理解を得ること。町内会費に見合っていて、いかに良いものだといっても、その気になってもらうことが難しい。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続。体調が変わればカードの内容も変化するため、今後は何年ごとに配布するかが課題。

(4) メッセージ・アドバイス

キットの作成にあたっては、数社の見積もりを参考に経費を安くする努力をした。